

平成27年度
地域連携教員活動支援事業資料

学校と地域を結ぶ

～学校と地域の連携を推進するために～

子どもが笑顔・教職員が笑顔・地域が笑顔



〔写真は、平成27年度地域連携重点推進モデル事業実施14校とネクストステージ研修発表県立学校（鹿沼南高等学校・今市特別支援学校）〕

県内公立学校に地域連携教員を設置

本県独自の指針を定め、平成26年4月から栃木県内の公立学校(小学校、中学校、高等学校、特別支援学校)に、地域連携教員を設置しました。

地域連携教員設置の目的

地域連携教員の設置に関する指針第1 目的

各学校に地域連携に携わる教員を「地域連携教員」として設置することにより、学校と地域が連携した教育活動を、生涯学習の視点から効果的・効率的に展開することを目的とする。

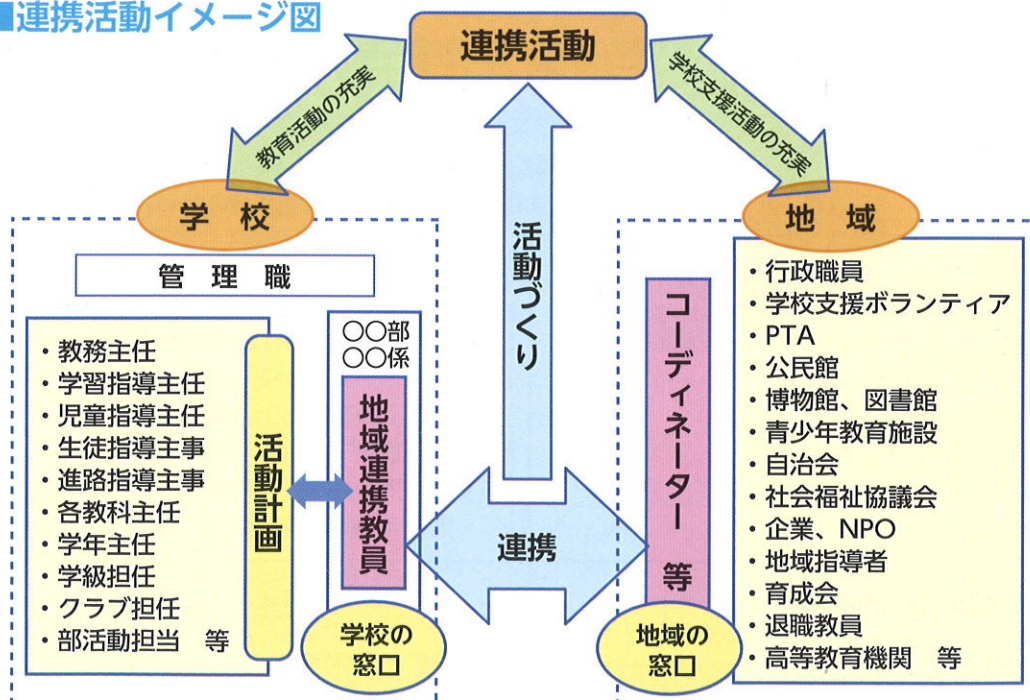
- ・ 地域連携に関する学校の窓口の明確化
- ・ 地域連携に関する校内の推進体制の整備

★児童生徒の「生きる力」の育成

★地域に根ざした特色ある学校づくりの推進

学校を核とした地域づくりにもつながる

連携活動イメージ図



平成27年12月21日の中央教育審議会答申(「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」や「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」)で、学校と地域が更に連携・協働していく重要性や地域連携を担当する教職員の明確化、教職員体制の整備等について指摘されている。

地域連携の効果



児童・生徒にとって

- ★多様な体験や多くの人との関わりを通して、社会性やコミュニケーション能力が育まれる。
- ★地域の方々の専門的な知識や技能にふれることにより、学習意欲が喚起され、学びが充実する。
- ★多くの大人に認められたり、励まされたりすることにより、自尊感情や自己肯定感が育まれる。
- ★地域の方々に支えられ学んでいくことで、地域への愛着が芽生え、地域の担い手としての自覚が育まれる。

学校にとって

- ★地域の人々の多様な視点や地域資源を生かし、充実した教育活動が展開できる。
- ★児童・生徒や学校に対する地域の方々の理解が深まる。
- ★地域との関わりが深まり、地域への理解が深まる。

地域・保護者にとって

- ★自分の経験や知識を生かす機会が得られることで、自己有用感や生きがいにつながる。
- ★学校への関わりを通して、地域住民同士のつながりが生まれる。
- ★地域が活性化し、学校を核とした地域づくりにつながる。

地域連携教員の声



〔平成27年12月実施地域連携教員活動状況調査から〕

大変やりがいのある職務です。今後も、学校教育目標の実現に向けて地域連携を推進していきたいと思います。

地域の実態が違ふのと、それぞれの学校での地域連携教員のスタイルがあると思うので、その学校に合ったスタイルで実施できればよいと思います。教員の立場でも違いがあるので、自分らしさを出して、一人で責任を感じず、無理せずチーム（仲間）で学校と地域をつないでいくことができればよいと考えています。

地域連携教員として働くことができ、地域とのつながりが更に深まるとともに、自分の教育観に変化が生じたと感じています。そして、よりよい指導や支援ができるようになり、視野も広がったと思います。さらに、次年度の研修や実践をどう深化させていくかなどの課題も見えてきて、意欲向上につながっています。

地域連携教員の職務



地域連携教員の職務については、学校経営方針を踏まえながら各学校の状況に応じて校内で十分に検討するとともに、校内の体制を整え学校全体で計画的に進めていきましょう。

〔学校と地域を結ぶ地域連携教員のガイドブック(平成27年度版)p10〕

1 学校と地域が連携した取組の総合調整に関すること【総合調整】

- 地域連携に関する計画の作成及び見直し
- 地域連携に関する校内研修の企画・運営 等

2 学校と地域が連携した取組の連絡調整や情報収集・発信に関すること【連絡調整や情報収集・発信】

- 地域連携に関する情報収集・発信
- 地域連携に関する活動の連絡調整 等

3 学校と地域が連携した取組の充実に関すること【取組の充実】

- 地域連携に関する活動の実践
- 地域連携に関する活動への支援
- 計画や活動についての評価 等



「(略) また地域連携教員が配置されたからといって全てを委ねることは適切ではない。(略) 教頭、主幹教諭、教務主任、児童生徒指導主任、学年主任、地域連携教員など関係する教員で構成されるチームで動くことができる態勢を整えることが必要である。(略)」

〔平成26年度「地域連携が学校経営に与える効果に関する調査研究」報告書p87引用
栃木県総合教育センター、宇都宮大学地域連携教育研究センター発行〕

地域連携の視点(例)

各学校の教育目標や活動のねらい、子どもの発達段階等を踏まえ、工夫して取り入れていきましょう。

〔学校と地域を結ぶ地域連携教員のガイドブック(平成27年度版)p9〕

【地域の人材を生かす】

- 学校支援ボランティアによる活動
・ 学習支援、環境支援 等
- 企業や高等教育機関等との連携
・ キャリア教育、出前授業 等

【地域の資源を生かす】

- 地域資源を活用した校外学習
・ 文化財、職場体験、学校間交流 等
- 社会教育施設の活用
・ 公民館がもつ地域情報の活用
・ 図書館、博物館等での調べ学習や体験学習
・ 青少年教育施設等での体験学習 等

【学校の力を生かす】

- 学校の力を生かした活動
・ 家庭教育学級、PTA研修、親子の物作り 等
- 学校施設を生かした活動と交流
・ 防災キャンプ、宿泊体験
・ 地域住民対象の合唱講座等の開設と児童生徒との合同学習 等

【地域へ参画する】

- 地域でのボランティア活動
・ 清掃・福祉・文化活動 等
- 近隣・異校種・地域の団体との連携
・ 地域一斉あいさつ運動
・ 地域の祭りへの参加
・ 地域探検、安全マップづくり 等

平成27年度地域連携重点推進モデル事業実施校の取組

14校のモデル事業実施校(小・中学校)において、地域連携に関する校内推進体制や地域との連携体制づくり、校内研修の充実、地域の教育資源を生かした教育活動の充実等、学校や地域の実態に応じた地域と連携した特色ある学校づくりの実践が行われました。

各モデル事業実施校の取組の一部を御紹介します。

- 学校名 児童・生徒数(平成27年12月1日現在)
- ①地域連携教員の職名(役職名)
 - ②今年度特に力を入れた取組
 - ③写真の説明
 - ④写真の人物または写真に関するコメント



とよ さと きた 宇都宮市立豊郷北小学校 児童数(213名)

- ①教諭(担任)
- ②地域の教育力を取り入れた授業についての校内研修
- ③ミシンボランティア参加による6年生家庭科の授業



④ボランティアの方や友達が優しく教えてくれたおかげで、トートバッグを上手に作ることができました。(6年生の声)

めい じ 上三川町立明治中学校 生徒数(472名)

- ①教諭(学年主任)
- ②本校の伝統となっている「地域とともにある学校づくり」に係る活動の継承と改善
- ③夕顔サマーフェスティバルINかみのかわへの参加



④町の伝統であるよさこい踊りに参加して、仲間と、そして他の大人の団体の人たちと一緒に踊ることができて楽しかったです。(中学生の声)

なん ま 鹿沼市立南摩小学校 児童数(108名)

- ①教諭(教務主任)
- ②学校支援ボランティアの組織化、児童主体の「花いっぱい運動」
- ③花いっぱい運動に協力してくださるボランティア



④学校行事に自分たちで育てた花を使おうという花いっぱい運動。花屋さんや肥料やさんが協力してくれました。

み より 日光市立三依小・中学校 児童・生徒数(7名)

- ①教頭
- ②外部講師との連携事業、公民館との連携事業
- ③一里塚を見学する5・6年生



④三依公民館主催事業と連携した小5・6年「総合的な学習の時間」を実施し、地域理解、郷土愛を育みました。

た の 益子町立田野小学校 児童数(252名)

- ①教諭(教務主任)
- ②講演会等を通じた地域・保護者への啓発活動(2回の講演会)
- ③家庭科ボランティア活動



④包丁を安全に使えるようになりました。だしを使った料理をたくさん知ることができました。(児童の声)

は が 芳賀町立芳賀中学校 生徒数(450名)

- ①教諭(学年主任)
- ②町からのボランティア要請に関わる連絡調整と生徒募集、地域連携に関する教職員に対する研修と生徒のボランティア活動の周知
- ③クリスマス会ボランティア



④JLCの皆さんに教えてもらいながら楽しく準備しました。みんな喜んでくれたので、私もうれしかったです。(中学生の声)

- とも めま
- 野木町立友沼小学校** 児童数(173名)
- ①教諭
 - ②ワークショップを取り入れた校内研修と教職員の意識の高揚ボランティア活動の地域への情報発信
 - ③地域・中学生と合同の神社のクリーン活動



④友沼小学校では地域と合同の運動会やクリーン活動を行う他、200名以上のボランティアが活動しています。

- つ が
- 栃木市立都賀中学校** 生徒数(369名)
- ①教諭(担任)
 - ②相互ボランティアの実施
 - ③地域行事「まるまるまるごとつがまつり」への参加



④今年はボランティアに参加だけでなく、生徒会主催の小物作りブースを出展し、地域との連携を深めました。

- にい た
- さくら市立熟田小学校** 児童数(173名)
- ①教諭(教務主任)
 - ②地域と学校を結ぶコーディネーターとの連携、年間活動計画の見直し
 - ③ボランティアの方との花植え



④今まで、児童と職員で行っていた花壇の花植えにボランティアの方にも参加していただきました。

- ば とうひがし
- 那珂川町立馬頭東小学校** 児童数(74名)
- ①教諭(教務主任)
 - ②保護者対象の地域連携に関する講演会の実施、クラブフェスティバルの開催
 - ③クラブフェスティバル～まゆ細工～



④クラブフェスティバルでは、地域の「まゆ細工」の技能を持った方を招いて教えていただきました。

- さき たま
- 那須塩原市立埼玉小学校** 児童数(451名)
- ①教諭(教務主任)
 - ②学校敷地内にある旧学童保育施設(地域連携ルーム)を利用した事業の実施。PTA主催の地域交流イベント「さきたままつり」の開催、黒磯南高校との連携
 - ③Global Communication Day(GCD)における高校生との交流



④GCD活動補助や夏季休業中の学習支援(2日間)等、黒磯南高校と様々な連携を行っています。

- な す
- 那須町立那須中学校** 生徒数(211名)
- ①教諭(教務主任)
 - ②学校支援協議会の立ち上げと校内支援委員会の組織づくり
 - ③コーディネーター作成の活動PR



④今年度から学校支援協議会を立ち上げ、地域コーディネーターと協力しながら、地域連携を進めています。

- さかい
- 佐野市立界小学校** 児童数(400名)
- ①教諭(担任)
 - ②地域連携実践シートの作成及び蓄積
 - ③風車の形の実験



④学校にはない大がかりな実験装置を使い、風車の形状によって風量が変わることを確認しているところです。

- あた ご だい
- 足利市立愛宕台中学校** 生徒数(127名)
- ①教諭(学年主任)
 - ②防災ワークショップの実施
土曜授業での地域高齢者とのクリーン活動
 - ③地域高齢者とのクリーン活動



④今年度、土曜授業として地域高齢者とのクリーン活動を実施することにより新鮮な気持ちで活動できました。

県立学校においても、「県立高校未来創造推進事業」や「ジュニア・キャリアアドバイザー事業」、「交流教育推進事業」、「アカデミアとちぎ推進事業」等において、地域と連携したすばらしい取組が行われています。

～校内研修の事例～

今年度のモデル事業実施校である那須塩原市立埼玉小学校が行った校内研修の実践を御紹介します。

【事前】 打ち合わせを丁寧に行ったことがポイント

	地域連携教員の動き	内 容
1	出前講座依頼	【那須教育事務所ふれあい学習課に電話で依頼】
2	事前打ち合わせ	【ふれあい学習課職員と研修内容の検討】 ①地域連携教員が、地域連携に関する現状や課題、研修のねらいを説明 ②①後、ふれあい学習課職員とどのような流れの研修にするか検討 ★近隣公民館の社会教育指導員や市教委社会教育主事からエールをいただくことに決定！
3	当日に向けた準備	【当日に向けて準備】 ①研修日の調整、教職員への連絡、那須塩原市内の小・中学校教員や近隣公民館の社会教育指導員への連絡、研修の計画書の作成 等

【当日】 和やかな雰囲気の中、参加者が考えを共有しながら進めることができたことがポイント

テーマ	学校と地域の連携について	日 時	6月19日(金)15:30～16:45
ねらい	職員の地域連携に関する理解を深め、意識を高める。		
参加者	開催校の教職員(19)、市内小・中学校の地域連携教員(4)、近隣公民館の社会教育指導員(1) 市教育委員会社会教育主事(1) 合計 25名		
時 間	75分	研修形態	ワークショップ
		ファシリテーター	那須教育事務所ふれあい学習課職員
地域連携教員	・会場準備・講師の紹介・レジュメの準備・付箋紙や模造紙等の準備 等		
1 はじめに (アイスブレイク) (5分)	「餃子じゃんけん」 		
2 ワーク1 (グループ協議) (15分)	「本音で語り合おう！地域連携」 ・地域連携をやってみて、「苦労したこと」、「失敗したこと」、「こんなことが面倒くさい」、「こうだったら楽なのに…」と思うことについて、グループ内で意見を出し合い、全体で意見を共有。 		
3 ワーク2 (講話) (20分)	「それでも、なぜ、地域連携が必要なのか？」 ・地域連携の必要性や効果、県内の地域連携に関する事例（ワーク1で挙げられた課題を解決するような）等の紹介		
4 ワーク3 (グループ協議) (25分)	「新たな視点で、地域と連携できそうなことは？」 ・講話を聞いて感じたことを基に、更なる地域連携の充実に向けて、「こんなことを手伝ってもらいたい」など、地域と連携できそうなことについて、グループ内で意見を出し合い、全体で意見を共有。		
5 おわりに (10分)	「地域の方からのエールをもらおう」 ・地域コーディネーターの役割を果たすことが期待される近隣公民館社会教育指導員、市教委社会教育主事のお話。（地域の実態や本音等。そして、学校に期待することや地域は学校にいつでも協力できる準備ができていることを伝えてもらう）		

【事後】 ワークのまとめを通し、研修をふりかえることができたことがポイント

【地域連携教員】

ファシリテーターが作成したワークのまとめを参加者に配付、説明。

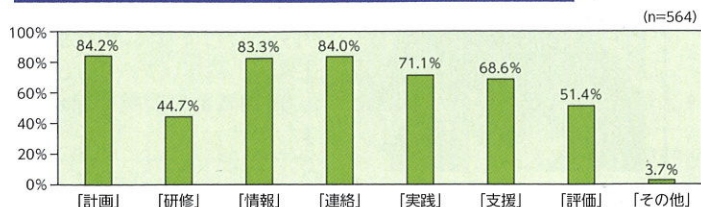
研修後、職員の地域連携に対する意識が高まりました。また、ワーク3で出された意見が、実践につながったものもありました。

【地域連携教員の感想】

「地域連携教員活動状況調査」から

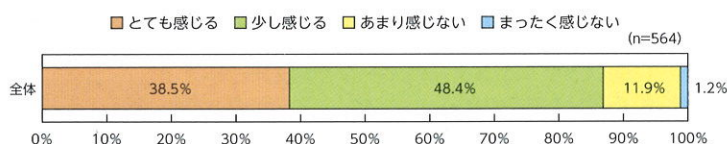
※調査対象:地域連携教員数620名(回答者数564名) 回答率91.0% [平成27年12月実施:県教育委員会生涯学習課(協力 県総合教育センター生涯学習部)]

「地域連携教員として担っている業務」 (複数回答)



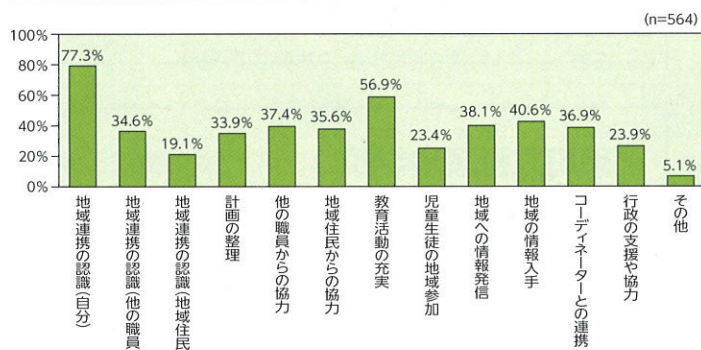
「地域連携に関する計画の作成及び見直し」、「地域連携に関する情報の収集・発信」、「地域連携に関する活動の連絡調整」の割合が高く、「計画や活動についての評価」、「地域連携に関する校内研修の企画・運営」の割合が低い。

「地域連携教員の設置に「重要性」を感じるか」



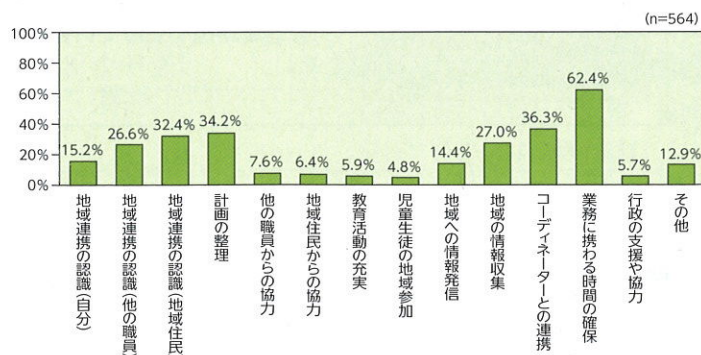
「とても感じる」と「少し感じる」を合わせると86.9%となり、約9割の地域連携教員が重要性を感じている。

「地域連携教員として業務を進めてきての効果」 (複数回答)



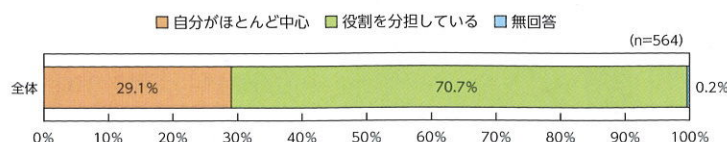
「自分が地域連携の重要性や必要性の認識を高めることができた」と回答した割合が77.3%と最も高く、次いで「地域の教育資源を取り入れた学校の教育活動が充実した」と回答した割合が高い。

「地域連携教員として業務を進めてきての課題」 (複数回答)



「他の業務が多忙なため、地域連携に関する業務に携わる時間が十分に取れない」と回答した割合が62.4%と最も高く、次いで「コーディネーターとの連絡調整がうまくできない。または、コーディネーターがいない」と回答した割合となっている。

「地域連携に関する取組をチーム体制で進めているか」



約7割の地域連携教員は、地域連携に関する取組を役割を分担したり、必要に応じて協力を得たりしてチーム体制で進めている。

栃木県教育委員会事務局生涯学習課

TEL:028(623)3408 FAX:028(623)3406 [平成28年3月発行]

